

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891100089		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家仁川		
所在地	兵庫県宝塚市鹿塩2-13-19		
自己評価作成日	平成23年8月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	新規開設の為、情報の公表制度調査対象外事業所
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成23年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭菜園のスペースがあり花や植物、野菜などを育てています。皆で水をあげて収穫もして食べ、楽しみながら育てています。施設内での食事もしていますが外食の雰囲気、楽しみもあるので職員と入居者全員での外食を行っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①**家族への報告**…毎月写真入りのおたよりに個別の暮らしぶりの報告を記載し家族に送付している。
 ②**生活環境**…平成22年開設の新しいホーム。阪急仁川駅より近く、交通の利便性が良い。住宅街に立地し、地域と繋がりを持ちながら生活が出来る。
 ③**ケアの状況**…利用者が穏やかな笑顔で生活され、利用者同士の関係にも配慮している。身体状況に応じて、居室の家具の配置や福祉用具の活用ができるように支援している。
 ④**職員教育**…新人研修を始め、年間法人内研修が充実している。誰伸び人事制度(人を大事にし、人を育てる制度)を採用し、職員のストレスマネジメントとモチベーションアップに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示板に掲示している。買い物、外食散歩等地域との繋がりを持ち地域を生活の場とするように心がけています。	ホーム独自の理念の構築はできていないが、法人理念に沿って「真ごころのこもったサービス」を実践し、利用者の笑顔のもとになっている。	ケアの指針となるホーム独自に理念を職員全員で作成されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩などをして挨拶など行いました、町内からの情報を頂き、行事やイベントに参加をしています。	町内会会長の訪問があり、自治会情報を頂き、利用者が楽しめる行事に参加している。今後、ボランティアによるアクティビティや菜園のお手伝い等の支援を検討している。	住宅街の中に立地しているため、地域の方のボランティアの支援の募集をされることを期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議に参加して頂き関わりや説明を行い、町内の行事にも参加をすることで認知症に対する理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し状況、状態について報告を行っている。会議の中で助言、要望を頂きより良い生活が送れるように生かしている。	会議では、地域行事への参加や敬老会のイベント等の利用者の楽しみごとの支援について相談している。会議での意見を活かして、職員の名前を玄関フロアに掲示している。	①会議で外部評価結果の説明をし、改善計画の相談をされたら如何でしょうか。 ②外出ツアーのボランティアを募集されたら如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険事業者協会に参加を通じて情報を頂いたり、意見交換に努めている。	3ヶ月毎に開催する宝塚市全域の事業所協会に参加し、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い理解を深めています。安全面を優先しないといけない場合など、事前に了解を得て対応することもあります。玄関には施錠はなくオープンな環境に取り組んでいます。	玄関扉は、夜間は防犯上施錠してる。食事時間等、本人希望により居室を施錠することもある。	施錠のことだけでなく、スピーチロック等、職員がケアの中で気づかずに行ってしまう身体拘束についても事業所内研修を実施されたら如何でしょうか。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い理解を深めています。利用者様一人ひとりの尊厳についても努力するよう努めています。	虐待予防に向けて、①休憩室を設置②職員との面談等のストレスマネジメントを実践している。日々のケアの中で起こる不適切なケアについて、事例研修をしている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加し今後職員活用出来るよう学ぶ機会を検討している。	後見制度を活用されている利用者がおられ、後見活動の支援をしている。本部集合研修を管理者が受講し職員全員に伝達研修を実施している。	「利用者の権利」を深く学ぶことで日常の支援内容にも磨きがかかります。今後も、是非、学習を継続して頂きたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳しい説明運営方針、金銭面など十分に説明を行い納得して頂けるように努めています。また誤った理解が無いように必要に応じて何度でも説明した上で契約を行っています。	契約時は、契約者・重要事項の説明の他、グループの機能やケア、介護計画について説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様との連携を密に取り運営推進会議に家族様へ出席して頂き意見、要望を出して頂いています。	運営推進会議で出た家族様からの意見を積極的に取り入れられるように努めている。	家族アンケートの中からも、運営に関して好意的な意見が読み取れる。ご家族に協力を願いサービスの向上に役立てて頂きたい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的な会議を開き意見を聞く機会を持っている。意見、要望が言える環境にし反映させるよう努めている。	フロア会議を月1回開催して、ケアについて意見交換が出来る場になっている。職員からの提案や意見は、法人内で検討するしくみになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員皆が意欲を持って働けるように「誰伸び制度」を導入して人事考課を行っている。シフト制であります。皆が有給休暇取得に向けて協力し精神面、リフレッシュした状態で勤務出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修や定期研修を行っています。勤務調整を行い意欲のある方は積極的に研修への参加ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険事業者協会に参加をして交流を図り、他社主催の研修にも参加をして交流、サービスの向上に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望についてアセスメントを行い、家族様からも意見を頂き職員間で情報を共有している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接、契約時などに困っていること不安、要望を聞き、以後も相談を受けやすい環境作りに努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様に不安、要望を聞き現在の状況に沿った介護が出来るか判断します。今必要としている支援を見極めるように努めています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者であり家族でもあるとの思いで日々生活をして尊厳を尊重して本人らしい生活を送ってもらえるようにしています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも連絡、協力を図り、互いに向き合い共感できる関係でいられるように取り組んでいる。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会がしやすい環境に努めています。家族との交流を大切にしています。買い物へも一緒に出かけています。	家族や友人が訪問しやすい雰囲気づくりをしている。家族との散歩や買い物等自由に外出して頂いている。家族と一緒に楽しめる敬老会を企画している。	家族との交流は、本人のケアにとって欠かせないものなので、是非、介護計画に位置づけを願いたい。
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションを大切にして孤立しないよう声かけ環境に努めています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもいつでも相談以来を受け付ける旨を伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、家族に生活歴や望む暮らし聞き取りをし本人希望に添った支援をします。	入居前に自宅を訪問し、生活歴や本人の暮らしぶりを把握している。	介護計画を立案時の初回アセスメントは、自宅状況を把握するだけでなく、本人・家族からの生活歴や思い等の聞き取りも期待します。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や現状を聞き馴染みの暮らしができるように努めています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、連絡帳や申し送りなどで心身の変化に気をつけています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状況の変化に応じて職員間で話し合い、相談をしてそのときに応じた介護計画を作成します。	家族の訪問時に、介護計画について意見や要望の聞き取りをしている。6ヶ月ごとの見直し時は、説明し同意を頂いている、	家族もチームケアの一員であることを認識し、家族が意見を表出しやすいように、ケアに関しての聞き取りのシート等も作成されたら如何でしょうか。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録と連絡ノートを活用し申し送り時口頭でも伝えています。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の現状を把握した上で応じたサービスを紹介しています。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のかたとも交流を深め情報を頂き、地域の行事等に参加している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、家族様に提携医の説明をして了解を頂き、月2回の往診をしている。緊急時等で電話連絡で指示等をお願いしている。必要時には紹介状を頂き他科の受診を受けています。	ホーム提携医の週2回の訪問診療があるが、かかりつけ医は、本人・家族の個々の状況に合わせて選択して頂いている。週1回の訪問看護や他科への受診支援している。	医療支援の内容(往診・受診)の結果等も含め、日常の健康状態も紙面で家族に定期的に知らせる方法も今後検討されては如何でしょうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携を図り日々の状態の変化様子を伝え健康管理をして頂いています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者様に面会に行き、様子を伺い家族医師の説明を聞き情報を得て退院後の生活がスムーズにいくように努めています。	入院時は、介護サマリーで情報提供している。管理者とケアマネが面会し、早期退院に向けて病院と相談している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に週末期希望、説明を行っています。現状が変化する都度家族、施設提携医で話し合いをし家族本人の意向を大切にします。	終末期ケアの指針を入居時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルがあり事務所に掲示しています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施しています。	消防署の年2回の定期消防訓練を実施している。	今後の災害時の利用者救出の地域の方の協力要請について、運営推進会議で検討されたら如何でしょうか。

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行い、入居者様の尊厳を尊重しプライドを傷つけないような対応を気をつけています。	職員は、入職時に個人情報の保護と守秘義務の同意書を交わしている。プライバシーの保護について、法人研修で繰り返し実施している。	「その人らしさ」を支援するためには、認知症ケアの理解と浸透が必要です。家族の協力を得るためにも、家族会等での学習会等の企画に期待をします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が話しをしやすい環境作りに努めています。職員だけで決めるのではなく自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムに合わせてやりたいことを聞き出来るだけ添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し整容に努めています。外出時や行事へ参加の時は化粧をされ楽しみにしています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲の調理の手伝いをして頂き手作りの料理を食べて洗い物、食器の片付けは職員と入居者様一緒に行っています。	食事は利用者のできる力を活かして、盛付けや後片付けを協働している。手作りおやつ(ホットケーキ・たこやき)やお好み焼きパーティー等食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い把握をしている。食事形態も各個人に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の能力に合わせて声かけ口腔ケアを行っています。状態に応じて週1回訪問歯科医の診療を受けています。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄の間隔の把握に努め、時間の誘導や声掛けに努めています。	トイレ誘導時は、羞恥心に配慮した声掛けを心掛けている。排泄の自立に向けて、状態に合わせたパット等を使用してもらっている。	今後も、出来る限り無理のない自立支援のためのリズム作りと、羞恥心への配慮を継続願います。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表での把握をし運動、散歩、食事、水分補給を心掛けています。それでも排便が無い時はgは医師の指示のもと下剤を使用しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	固定曜日はなく声掛けを行い入浴して頂ける方に入浴してもらっています。血圧、体温、表情など入浴前の体調確認を気をつけています。	本人のペースや気分に合わせて入浴して頂いている。好みの湯温に配慮している。	「入浴の時間」は貴重な利用者との個別コミュニケーションの機会です。思いを聴きとる大切な時でもあると意識して捉え、ケアに反映されていくことに期待をします。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は清潔保持に心がけています。利用者様が休みたいときに休めるような環境に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携を図り薬の情報を頂いています。薬手帳、処方せんを各個人でファイルにとじており内容把握できています。服用時はダブルチェックをして記入をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様によってできることを見つけ家事などを手伝って頂き、感謝をして生活にやりがい、張りのある生活を送れるように支援しています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせて散歩、買い物など外出をしています。庭の水やりもしてもらったり外食などにも行っています。	日常的に買い物や散歩、菜園の世話等、外出して頂いている。季節毎の地域行事(夏祭り)等や運営推進会議で情報を頂いたイベントに参加している。2ヶ月に1回外食日を設定している。	介護計画に散歩や外気に触れる機会等、外食、地域行事への参加を位置づけられたら如何でしょうか。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何名様かは家族様了承の上財布を持たれ買い物時に支払われます。預かり施設管理している場合レジの前で清算はしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人から手紙や年賀状が届く方は入居者様に渡しています。年賀状は書いて頂くようにしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、清潔な環境を保ち壁には作品や写真、カレンダーを掲示して季節感を感じ取ってもらっています。	リビングにソファを設置し、仲の良い利用者同士でくつろげるようにしている。外出時の思い出話ができるように壁に外出時の写真を掲示している。1階は、洗濯物干しと菜園にそのまま出ることができ、ベンチに座って外気浴ができるようになっている。	①2階のバルコニーで野菜や花を育て、2階の入居者にもいつでも外気に触れる機会を作られたらどうでしょうか。 ②1階フロアの照明が多少暗いように感じるため、ご検討されては如何でしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き利用する時は利用するような利用者同士が団欒できるような居場所を確保できるようにしています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持ってきて頂けるようお願いし衣類、家具、写真などをもってきてもらい馴染みの空間作りに努めています。	ベッド・筆筒・TV等、家族と相談しながら、馴染みのものや使い勝手のよいものを家族と相談しながら持参してもらっている。ADLの状態に合わせた福祉用具を紹介し利用してもらっている。	①居室の換気や清掃をする意味を再度職員間ので話し合いをお願いします。②居室の清掃を拒否される方については、家族と相談しながら清掃の方法を検討されたら如何でしょうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室前には名前表示をしてわかりやすくしています。		